

## 平成29年度第2回学校評議員会の実施報告書

---

学校名  
岐阜県立可茂特別支援学校 校長 田口 正芳  
所在地 美濃加茂市牧野 2007-1 電話 0574-28-3150

---

- 1 会議の名称 岐阜県立可茂特別支援学校 学校評議員会
- 2 会議の構成
- |     |       |                   |
|-----|-------|-------------------|
| 委員  | 板津幹彦  | NPO 法人プラス・ワン理事    |
|     | 大脇房夫  | レストラン・リリアーナ経営     |
|     | 前田直子  | 可児市発達支援センターくれよん所長 |
|     | 水谷 敬  | 元公立学校校長           |
|     | 片桐英雄  | 下米田地区自治会会長        |
| 学 校 | 田口正芳  | 校長                |
|     | 有本美智恵 | P T A会長           |
|     | 大前幸弘  | 事務部長              |
|     | 石原和寿  | 教頭                |
|     | 河合浩司  | 小学部主事             |
|     | 社本教恵  | 中学部主事             |
|     | 野々村健  | 高等部主事             |
|     | 吉村智典  | 高等部主事             |
|     | 高井深雪  | 教務主任              |
- 3 会議の目的 学校運営等について地域住民や保護者から幅広く意見を求め、教育活動の活性化につなげるとともに、地域に開かれた学校づくりを推進する。
- 4 会議の開催 平成30年2月20日（火）9：30～11：40  
可茂特別支援学校 会議室
- 5 会議の概要
- (1) 校長挨拶
  - (2) 各学部の活動報告 各部主事  
・各部主事が学部の活動についてプレゼンテーション
  - (3) 授業参観
  - (4) 作業製品の価格設定について  
新規に製品を追加するため、以下の3点の価格について検討した。

- |       |             |
|-------|-------------|
| ① 木工班 | コースター：100円  |
| ② 木工班 | 木製ハンガー：300円 |
| ③ 木工班 | 棚：800円      |

・価格設定については、適正との判断を受け、提案の価格に決定した。

(5) 保護者アンケート結果について

- ・「先生と児童生徒との信頼関係」、「先生が愛情をもって児童生徒に接している」、「子どもたちが生き生きとして楽しそう」といった設問については評価が高い。
- ・「授業において一人一人に合った教材等の準備がなされている」という設問については肯定的な評価が70%台であり、昨年度を下回った。これについては教師集団が若く、経験が浅いことへの保護者の不安があるものと捉えている。
- ・体罰やいじめに関する設問について、「わからない」との回答が多く、今後は学部懇談会や学校便りなどを利用し、意図的、計画的な情報提供に努めることとする。
- ・進路支援については高等部の保護者については評価が高く、小・中学部の保護者では「わからない」という回答が多い。これについては、進路支援が高等部から具体化し、個々に対する進路支援が保護者に受け入れられていることを表しているものと捉えている。

(6) 学校評議員の意見

委員 A：インフルエンザの流行はなかったか？

回 答：小学部で流行し学級閉鎖もあった。現在はほぼ終息した。今年の特徴としてA型とB型が混在した。

委員 A：職場でも流行ったが、家族（子ども）からうつる傾向が強い。外国人の児童生徒の在籍の状況は？

回 答：全体の1割程度を占める。

委員 A：自分の職場でも同様の状況。新規で外国人の採用をすると、日本の高校を卒業していても、日本語の力が不足している傾向がある。家庭ではポルトガル語、学校は日本語で、十分な日本語になっていない。

回 答：高等部に在籍する外国人の生徒は、日常会話では特に困っていない状況だが、教師が保護者とコミュニケーションをとることが難しい。

委員 A：子どもを大学まで進学させたいという外国人の親も多く、そのために賃金の高い夜勤ばかりをする。給料が一番大事になってしまう。

回 答：現在、本校ではポルトガル語通訳が常駐し、フィリピン人のためのタガログ語通訳も週2日入ってもらっている。このおかげで、保護者とのコミュニケーションもずいぶんとれている。就学相談の時点で、どの言語が必要か確認している。

委員 A：社会的にもブラジル系の外国人から、フィリピン人に移行している傾向がある。

委員 B：インフルエンザの流行の話題があったが、学校では衛生管理がとても重要に思う。空気がきれいなこと、水回りがきれいなこと、そして口腔ケアがとても重要。朝昼晩の3回の歯磨きが感染症予防に有効なことは証明されている。この学校の、室温は高すぎず良い。階段の埃の除去をすると良い。

教室の入口ドアの取っ手の消毒を毎日1回するだけでも予防効果が上がる。何事も予防が大事。問題が起きてからの対処は大変で解決も難しい。すべてのことは事前にどう防ぐか。危機管理が重要である。

委員 C：児童生徒の増加の中、学校としては教室の確保を工夫してある。早期の高等特別支援学校の開設を求めたい。

発達支援センター「くれよん」でも、1割は外国人。通園には保護者による送迎が原則だが、それができない保護者も多く、民間の事業所の送迎サービスを受けるケースも多い。「くれよん」には通所するが、一般の保育園には通っていない外国人幼児も多い。

最近では、日本語がわからないだけでなく、発達障がいの特徴が顕著な外国人の幼児が増えているように感じている。保護者は、働くことに重きを置き、夜勤も多く、子ども中心の生活になりにくい。

発達障がいの傾向が強く、パニックになりやすい場合、病院受診をして小さい頃から服薬するケースも増えているように思う。学校ではどうか？

回 答：小学部では発達障がいの特性による問題を軽減するための服薬は少ない。

委員 D：保護者アンケートの結果については、いじめや体罰についての「わからない」との回答は、本当に情報がなくて「わからない」のだと思う。そういう点で、特に問題はないと思う。「いじめ防止対策委員会」に出席し、学校の方針や対応を聞くとよくわかる。

回 答：情報をどう提供するかは今後の課題として検討していきたい。

委員 E：今年度の高等部の卒業生の就職の状況は？

回 答：18名が一般就労を希望している。まだ全員の就職先が決定していない。A型、B型等の福祉就労はほぼ決定した。

委員 E：高校においては就職率が高いと聞いているが、特別支援学校ではどうか？

回 答：受け入れ先は増えているが、好調とは言い切れない。

委員 E：就職後3年間程度の離職率のデータはとっているのか？

回 答：卒業後の継続支援はしているのでデータもある。卒業後のフォロー体制の強化はしていきたいと考えている。

委員 A：自分の職場ではハラスメントの問題が実際あった。企業としてどう向かい合うか、どう対策をとるかを明確にすることが大事だと認識している。学校ではどうしているか？

回 答：年3回のハラスメント調査を実施している。

委員 A：企業としては、ハラスメント撲滅を強く打ち出している。受けとめる側の意識も大きいので、とても難しい問題ではある。

委員 B：人間同士の相性というものがある。相性が悪いところに問題がおきる。物理的に離すことが有効だが、職場では難しい。日々のコミュニケーションを十分とり、普段の様子をよく把握しておくことで何か問題が大きくなる前に兆候を見逃さないことが大事。ハラスメントの問題では解決は難しい。事前に防ぐことが重要。

委員 F：「学校が好きな子」を育てるという姿勢は何より大事。これからも大事にしてほしい。パニックへの対応は難しい。社会的な支援も増えてきたことは

良いこと。農業班の作物はどうしているのか？

回 答：販売している。

委員 F：物を生産するという活動はとても良いと思う。

#### (7) 閉会

校長挨拶：ハラスメントの問題はとても難しいと考えている。受けとめる側の意識によって問題が変わってくる。現在は、「心が弱っている人」をフォローするという意識と体制をとっている。学校の職場としての雰囲気は良いと感じている。本日、皆様からのご意見等については今後の学校運営に活かしていきたい。

来年度、体育館の天井の耐震改修工事が予定されている。6月から9月に実施し、運動会と学校祭に影響が出ないようにした。8月のPTA主催の夏祭りが難しい。3月に県教委からも担当者が来て、保護者への説明会を実施する。ご理解いただきたい。